

平成 27 年度 第 1 回理事会 議事録

1. 日 時 : 平成 27 年 5 月 16 日(土) 13:00~15:00
2. 場 所 : 弘前大学医学部附属病院 2F 検査部 カンファレンス室
弘前市本町 53 Tel. 0172-33-5111
3. 出席者 : 小島 佳也、秋元 広之、齋藤 浩治、藤田 絵理子、増田 望、
斉藤 仁、佐藤 めぐみ、木津 綾乃、木下 純一、久保 忠利、
野坂 亨治、吉岡 治彦、安田 善一、阿部 浩
4. 欠席者 : 川村 多蔵、三上 ルリ子、奈良 秀則

定款第 5 章第 32 条及び諸規定により、議長に小島会長があたり、書記に佐藤、木津理事が指名され、審議が行われた。

【報告事項】

1) 会計監査報告阿部理事

安田 善一監事より、阿部浩監事と平成 27 年 5 月 16 日(土)に平成 26 年度の監査を実施したところ、「会務および会計が適切に行われていることを認める」との報告があった。

2) 第 7 回理事会議事録報告

資料として配布された『第 7 回理事会議事録』に従って小島会長より報告があり、議事録内容の了承を求めたところ、出席者全員が異議なく了承した。

3) 学術部経過報告

秋元学術部長より以下のように報告があった。

①ランチョンセミナーが未定である。

②部門長より、部門の研修会をメーカー共催で行ってもよいかと問い合わせがあった。今年度より青臨技の部門活動費が 10 万円、日臨技が 5 万円から 2 万円に下げられた。講師の先生の謝礼、交通費などが不十分になる可能性があり、メーカーに負担してもらいたい。

- ・小島会長より次のように回答があった。分野により特定のメーカーに偏りが生じることが避けにくいこと、収支が不明確になる可能性があるなどの理由から共催はこれまでなるべくやらないようにしてきた。メーカーと共催で行っている県もあり、他県で行っている現状を鑑みて青森県でも共催を可能にしてもらいたいという意見が学術で挙がったが、今後もその方針は変えないでいきたい。予算は減額になったが、研修会の内容にメーカーの製品などを広告できる時間を設け、それに対しての参加料を取る

形にするなど、工夫してもらいたい。

- ・秋元学術部長より、支部の研修会でも講師料などは支部の負担になるのかと質問があった。
- ・齋藤理事より、支部で企画はするが最終的には青臨技としての負担になるため、支部の負担になるわけではなく、また著名な講師の方を呼ぶのであれば支部単位の研修会よりも県の研修会でやってもらうか、全支部に案内を出すなどしてコストパフォーマンスも考えてほしいと回答があった。

③学会での特別講演、教育講演を行っていただいた先生方に後日、青臨技会誌に掲載する原稿を依頼している。寄稿料は現在ページ数で決めているが、印刷の段階で原稿料が決定するため原稿料の支払いまでに時間がかかることが問題である。学会時に旅費、講演料とともに、原稿料も一緒に支払うことができれば円滑に進むため打診したい。

- ・小島会長より、午前の常任理事会で原稿料を一律 2 万円にすればどうかと意見がまとまったと追加報告があった。

上記の事項について理事に諮ったところ了承された。

4) 公益部経過報告

藤田事務局長より、川村公益部長を代理して以下のように報告があった。

- ・高校心電図検診は 4 月から始め、数校を残すのみとなっており、大きな事故・トラブルなどはなかったが、数点のクレームが挙がっている。
- ・心電図測定の際、2 台のベッドを 1 つの心電計で運用し、スイッチで切り替えていたが、今回切り替えスイッチのない心電計が届いた。これにより時間のロスが生じた。
- ・心電図検診を行うにあたり、前は講習会を開いていたが、今回はなかった。
- ・右胸心の測定方法をどのようにしたらよいか、アース線が切れていた、三又コンセントの変換アダプタが入っていなかったなどの問題点があった。
- ・高井理事より、前回までは心電計が各学校に郵送されていたが、今回は医師会の方が当日に運搬したため、混乱が生じた。技師が現場に行っても心電計が届いていないことがあったため、次年度に向けて川村公益部長と相談したいと補足があった。

5) 渉外部経過報告

齋藤渉外部長より特になしと報告があった。

6) 事務局経過報告

藤田事務局長より、配布資料に基づいて以下のとおり報告があった。

- ・青臨技関連経過報告
- ・東北臨技関連経過報告
- ・日臨技関連経過報告

- ・ 関連団体経過報告
- ・ 今後の予定
- ・ 小島会長より、次のように補足があった。東北臨技代表者会議が4月18日に福島で行われ、小島会長と川村公益部長で参加した。東北支部は北日本支部へと移行したため、東北臨技自体はなくなったが、震災時に復興支援金が東北臨技に送られ、現在1,000万円程度残っており、これを管理するための団体として残っている。会を縮小していくために、参加人数は各県2人から1人へと変更になった。岩手県と宮城県の2県はDVT検診を継続して行っており、基金を使用していたが一昨年打ち切りになったため、昨年東北臨技から各県100万円を支給した。しかし東北臨技としては、DVT検診は日臨技の事業と考え、日臨技に対して予算申請をしていたが昨年度は認められなかった。これにより、平成27年度も両県への100万円の支給が決定している。日臨技への活動要請は今後もしていく方針である。また、現在出張費は県技師会の負担であるが、東北臨技からの繰越金もあるため、次回からは東北臨技から出張費が出る予定である。
- ・ 6月6日に北日本支部幹事会が新潟で行われるため、小島会長が参加する予定である。

7) その他

特になし

【議題】

藤田事務局長より以下の通り説明があった。

1) 平成27年度定時総会について

- ・ 定時総会の役員割り当てについて各支部長、事務局長宛てに役員申請をしている。現在、議事運営資格審査委員は上十三支部の国分氏、議事録署名人は東青支部の本田氏が決定している。締切は6月初旬を予定しているため、これから議長などを決めていく。
- ・ 各施設連絡委員、自宅会員へ学会・総会・精度管理指導講習会・情報交換会のお知らせを5月15日に発送したため、翌週には全施設に行き渡る予定である。

上記の事項について理事に諮ったところ了承された。

2) 第42回青森県医学検査学会について

木下理事より以下の通り説明があった。

- ・ 駐車場について、前回理事会時に指摘を受け、つがる総合病院に問い合わせたところ、中央公民館隣の一ツ谷駐車場の使用許可を得ている。正式な文書は県技師会より津軽総合病院管理課長に提出する予定である。
- ・ 小島会長より、ランチョンセミナーの弁当代をメーカー負担にしたところ、参加メーカーが出なかったため来年度からは企業負担を減らしたいと追加説明があった。

上記の事項について理事に諮ったところ了承された。

3) その他

- ・資料として配布された『平成 26 年度 一般社団法人青森県臨床検査技師会収支計算書』に従って増田理事より報告があり、内容の了承を求めたところ、出席者全員が異議なく了承した。
- ・検査と健康展について小島会長より次のように説明があった。全国検査と健康展の実施について日臨技より各県の計画書提出要請があった。会場が 8 月に入らないと予約できないため、日程についてはまだ決定できないが、11 月に開催予定である。川村公益部長を担当とし、奈良中弘南黒支部長に実務を担当してもらいたい。県の事業であるため、全支部の協力をお願いしたい。

上記の事項について理事に諮ったところ了承された。

議長は以上をもって審議を終了したことを告げた。

会 長 印

監 事 印